



# わが家のアイドル

白浜にお住まいの  
筈本 尋貴さん・佐奈恵さんの

次女 **梨乃**ちゃん(1か月)

はじめまして梨乃です。  
何よりもお風呂が大好き！  
寧々(ねね)姉ちゃんと玲朗(れお)兄ちゃんと  
早く一緒に入りたいよ!!



下田市はあいさつ実施運動中

あいさつは、ほんの少しの勇氣から



## 下田市内の指定文化財

その46

下田市指定史跡

### 白浜神社の鏡と御正躰

所在地 白浜 白浜神社  
指定日 昭和56年8月7日  
姿を写す道具として、現在

ではどこの家にもある鏡ですが、日本に最初に伝わったのは弥生時代といわれています。中国で作られた鏡が持ち込まれ、九州にある弥生時代の遺跡や各地の前方後円墳などからは副葬品として多くの鏡が発見されています。古代において鏡は、権力者の宝物や神の宿る神聖なものとして使われていたようです。古墳時代になると、中国製を模した鏡が国内でも作られるようになり、平安時代の末頃には日本独自の鏡(和鏡)が作られるようになりました。白浜神社には、文化9年(1812)に、本殿の後ろにあった「命の松」と氏子から親しまれていた御神木の根元から掘り出されたと伝えられている青銅製の鏡と、金銅製の御正躰が伝わっています。

水草双鳥鏡

表面径10.7cm、重量124g。背面には捻菊座鈕を中心に水流と水草、左右に双鳥の飛ぶ姿を薄肉で表現した平安時代後期の優雅な藤原鏡です。



優雅に飛ぶ双鳥

亀甲地双雀鏡

表面径11.4cm、重量180g。亀甲地で亀座鈕の亀首の近くに双雀を描いた鎌倉時代後期の作です。



見事に整えられている亀甲地

山吹双鳥鏡

表面径11.4cm、重量212g。花形中隆鈕で全体に山吹を散らした中に双鳥を配したもので鎌倉時代の製作。



散りばめられた山吹

御正躰

径15.2cm、厚0.1cm。薄い円形板で、背面に「施主忌部能次 大藏 嘉禄元年(1225)十二月□日乙酉若宮御正躰」と線刻されています。



懸仏とも呼ばれます

問合せ先

教育委員会生涯学習課

☎ 5055



「広報しもだ」は再生紙を使用しています

広報しもだ 2009.5月号

下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>